

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

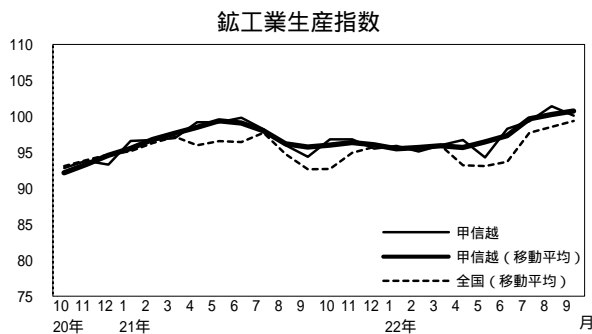
前回からの主要変更点

なし

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」や「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により、前期比4.0%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。
 2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
 3. 甲信越は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
電子デバ、電気・情報通信	28.9	1.3	4.6	2.3	1.0	0.7
汎・生産・業務用機械	24.8	3.6	6.1	0.9	5.8	3.5
食品・たばこ	12.0	0.3		0.3	3.5	
石油・石炭、化学、プラスチック	10.3	1.6	0.6	2.0	0.2	4.4
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.8	1.1	1.0	0.3	1.4	1.0
鉱工業	100.0	0.8	4.0	1.0	2.1	1.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
 2. 7 - 9月期、9月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

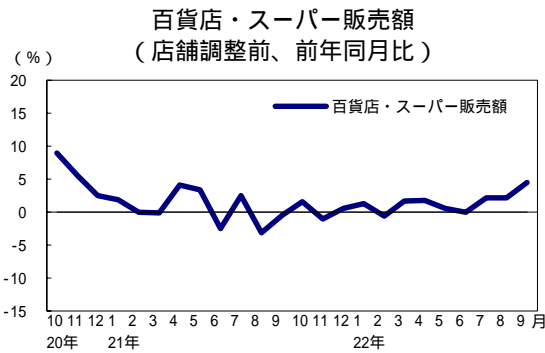
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7 - 9月期は前期比 0.4%増となった。月別にみると、7月は前月比 0.2%増、8月は同 0.1%増、9月は同 0.1%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比 2.9%増となった。月別にみると、7月は前年同月比 2.2%増、8月は同 2.2%増、9月は同 4.5%増となった。



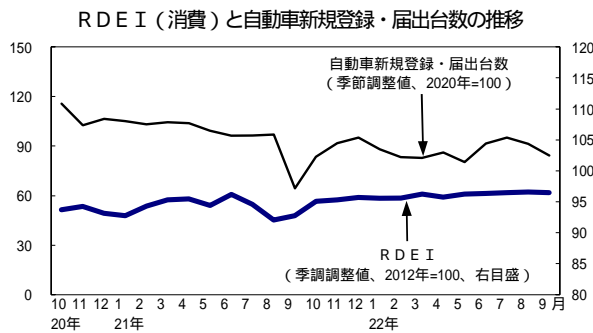
	2022年7-9月	2022年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.4	0.2	0.1	0.1
百貨店・スーパー(*2)	2.9	2.2	2.2	4.5
乗用車(*3)	7.2	2.5	4.2	31.1
(季節調整値)(*3)	5.0	3.9	4.0	7.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

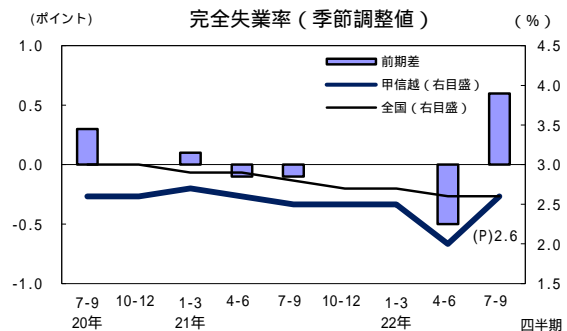
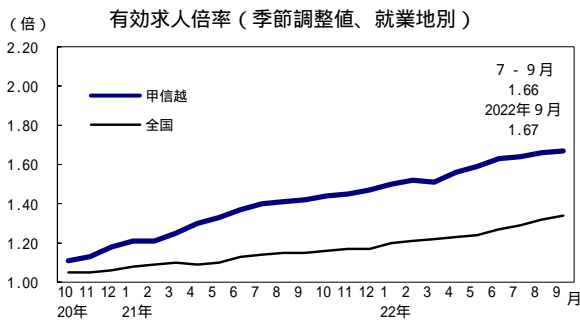
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整。

2. 7 - 9月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年10月調査）景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計動向関連	□	・新型コロナウイルスの感染第7波は、下げ止まりの感がある。皆が感染状況に慣れており、人の動きはある（一般レストラン）。
		○	・全国旅行支援がスタートした日から、徐々に来客が増加している。特に、メディア系の団体ツアーが復活しつつある（観光名所）。
		▲	・新型コロナウイルス感染症に関連する行動制限が緩和されたとはいえ、各商材やガソリン、電気代等、値上がり品が多く、家計に与える影響やこれから先の不安感が大きい（スーパー）。
	企業動向関連	□	・物価上昇が一度ではなく複数回に渡っている。特に、消耗品の購入価格が上がっており、経費が増加している。事務機器も来年度から値上がりするとのご案内が来る等、設備投資への影響も出ている（新聞販売店 [広告]）。
		▲	・ウクライナ情勢や円安の影響による原材料価格高騰等が、物理的にも心理的にも景気を悪化させていると感じている（金融業）。
		○	・新型コロナウイルス感染症の影響による海外からの入国者数の制限解除に伴い、飲食店関係からの受注が多くなってきている（食料品製造業）。
	×	—	
雇用関連	□	・求人が増えてはならず、状況を聞いても変わらないという企業が多い（求人情報製作会社）。	
	▲	・シニア層や女性の求職者が増えてきている。物価高などの影響があると思われる。新規求人は前年比でプラスの状況ではあるが、増加幅は小さくなってきている。業種によってもばらつきが見られ、製造業は減少傾向にある一方、行動制限緩和や観光需要の高まりなどにより、卸小売業、飲食、サービス業では増加している（職業安定所）。	
その他の特徴コメント		○：10月11日の全国旅行支援開始から、人出が激増している。前回のGo Toキャンペーンを思い出している（商店街）。 ○：半導体不足の影響による新車供給遅れは続いているものの、車種によっては解消しつつある。客の購入意欲は旺盛で、新車受注は伸びている（乗用車販売店）。	
先行き	家計動向関連	□	・全国旅行支援の影響で、需要が増加していることは確かである。ただし、為替相場の不安定さにより、先行きが不透明なこともあり、このまますんなり年末の旅行需要や予約が回復することは難しい。全ての物価が上昇しているので、消費減退となる。現状のまま年末を迎えたとしたら、余り変わりが無い（旅行代理店）。
		○	・クリスマス等もあるので、売上は上がってくると思う。光熱費などの上昇で、経費の増加も懸念している（コンビニ）。
	企業動向関連	□	・クリスマス商戦に向かい、ワークショップ等の動きには期待できるものの、商材受注の予測は立たない。いろいろと試行錯誤して進めているが、気掛かりなことばかりである（窯業・土石製品製造業）。
		▲	・値上げの影響で、消費者の購買行動が変化しており、耐久消費財の買換えを控える等の影響が懸念される（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・コロナ禍による行動規制の緩和から、宿泊、飲食業関連の求人は増加が見込まれるが、原材料の高騰や円安等の不安要素もあり、全体としては大きな変化はない（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		□：このところ物価が高騰し、食品、ガソリン、燃料等が軒並み値上がりしている。政府の経済対策に即効性があるのかどうか何ともいえないので、当分景気はそれほど良くならない（百貨店）。 ▲：資材の値上げの影響で、新設物件の計画が停滞している（設計事務所）。

(D I) 現状・先行き判断D I（甲信越）の推移（季節調整値）

